

幸運アップ♪ 岩木山神社の狛犬様

弘前駅からバスで約40分のところに、パワースポットでも有名な岩木山神社があります。開運招福の5つの神様を祀っていて、ご利益を授かろうと季節を問わず多くの参拝客で賑わっています。今回は、この神社の珍しい狛犬様をご紹介します。杉木立の参道をまっすぐ進むと真っ赤な楼門が見えてきます。楼門へと上がる階段の柵の陰からひょっこりこちらを覗く何か…狛犬様です。右はつかまり立ち、左は逆立ちで、よく目にする「おすわり」とは違う格好です。それぞれが異なるパワーをもっていて、頭を上にした狛犬様は金運、下を向いた狛犬様は恋愛運がアップすると言われています。一緒に写真を撮って携帯電話の待ち受けにすれば、さらにご利益が高まるそうですよ♪。

春、新生活が始まる季節ですね。岩木山神社で運気アップはいかがでしょうか。岩木山の新緑と参道の桜も見頃を迎え、抜群のロケーションに心洗われること間違いなしです。
(村木)



2018年 総合カタログをお届けいたします。

津軽こぎん刺し

刺繍の技法のひとつに「刺し子」と呼ばれるものがあります。青森県津軽地方に伝わる伝統的な刺し子は『津軽こぎん刺し』と呼ばれ、今また注目されています。江戸時代、寒冷な青森では綿の栽培が出来なかったため、農家の人達は目の粗い麻布で出来た着物を着ていました。北国の厳しい寒さをしのぐために、その布地に刺繍を施すことで防寒・補強をしたのが始まりとされ、津軽地方では、野良着のことをこぎん(小布、小巾)と呼んでいたためこの名がついたと言われています。一年の半分近くを雪に閉ざされた中で、女性達が競い合って生み出した細かな美しい幾何学模様は600種類もあるそうですよ。ハナッコ(花)や猫のマナグ(眼)など暮らしの中の身近なものも多く、伝統技法でありながらその洗練された模様はとてもおしゃれで、北欧雑貨にも合うと人気となっています。色鮮やかな布や糸を使い現代風にアレンジされても息づいている、こぎん刺しの持つ温もりを、是非一度、見て触れて感じてみませんか。
(利野)

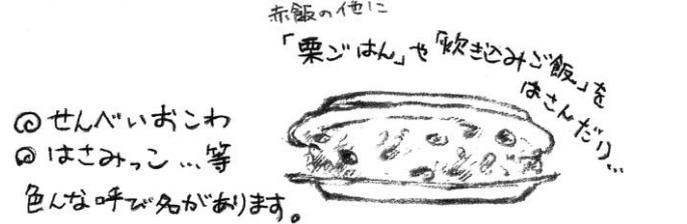


こびりっこ

前回の加久の屋便りで水飴やキャラメルを挟んだせんべいがあると紹介しましたが、青森県の南部地方では、なんと、せんべいに赤飯をはさんだものがあるんです! 「こびりっこ」と呼ばれ、農作業中の合間におやつとして食べられてきました。手がべたつかないようにせんべいに挟んで食べるようになったといわれています。ご飯の水分でしっとりとしたせんべいの食感とほのかな塩味、赤飯との相性が良くボリュームも満点です。

語源は、小屋(こひる:間食) → 「お屋っこ」からきているとか…南部地方では、「〇〇っこ」とつけて呼ぶことが多いのです。

郷土料理として学校給食にでることもあり、自分で南部せんべいに赤飯を挟んで作る「こびりっこ」は、子ども達に人気のようです。道の駅や朝市などでは、ジャパンサンドとも呼ばれ、他に「おこわ」バージョンもあります。機会がありましたら是非食べてみてくださいね。
(橋本)



《お客様のお声をお聞かせください》

イラスト: 東

この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思っております。※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。